

令和3年度 碧南市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日時

令和4年2月25日（金）午前10時から午前11時35分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる 2階 デイルーム

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者（各種団体の代表者）9名

河原厚司、永坂幸子、村松昭一、古井露子、鈴木たか子、對馬幸司、石川まさ恵、
長谷川哲巳、鳥居寛英

(2) 欠席者 3名

三島博、牧野昭彦、山田忍

(3) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授

(4) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 杉浦秀司、高齢介護課長 鈴木美奈子、福祉課長 杉浦浩二、
福祉課社会福祉係長 河原睦、社会福祉係主事 榊原陵子、澤田直也、亀島瑞生

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長兼地域福祉係長 村松幸雄、地域福祉係主査 古川裕隆、小島誠司、
管理課児童係長 永井邦枝

4 傍聴者

0人

5 議事

(1) 議題

ア へきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) へきなん地域福祉ハッピープランの概要

(イ) 市民の意識調査結果

(ウ) 行政の取り組み

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

イ 各地区の地域福祉活動の取組みについて

(2) その他

6 議事の要旨

(1) 議題

ア へきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) へきなん地域福祉ハッピープランの概要 及び (イ) 市民の意識調査結果
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：市政アンケートの結果の報告があったが、このアンケート結果をどのように計画に反映等しているか。

【事務局】：計画としては、昨年度策定をした際に、以前のアンケート結果を踏まえ策定を行っており、改めて今年度以降のアンケート結果を反映した計画の策定を行うのは、次回計画策定を行う6年後を想定している。ただ現状としては、今年度のアンケート結果については、現計画策定時に確認した前年度以前のアンケート結果の傾向から大きく変化があったわけではなかったため、現計画においてもアンケート結果に沿った計画内容となっていると考えている。

【委員】：資料4、5ページの基本理念等の記載のところに「等」といった表記が散見されるが、省略されている計画内容についても分かるように努めてほしい。

【事務局】：本資料については、計画の概要版から引用しているため主要な項目に限った記載となっているが、推進に当たっては計画全体についても多くの方に伝わるように努めてまいります。

【委員】：このアンケートについては毎年度実施しているか。また、地域性を踏まえたアンケート結果について、どのように評価を行い、地区別計画にどのような影響が及ぶこととなるのか。

【事務局】：市政アンケートとして毎年度実施しているものとなっている。このアンケート結果が、計画推進の評価や方針の決定に直結するわけではないが、地区の傾向や経年変化の傾向を踏まえ、今後の各地区の活動や事業推進の参考としていきたいと考えている。

(ウ) 行政の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：資料27ページに記載のある「ゲートキーパー研修」について、その内容と、研修実施の効果はどのようなものであったか。

【事務局】：ゲートキーパーとは、自殺企図がある人を、自殺を踏みとどまらせるように支える人を指すものであり、これを養成する研修がゲートキーパー研修である。所管課である健康課としては年間5回の開催を目的としていたが、令和3年度は4回の実施に留まってしまい、更なる受講者の拡大を目指しているとのことである。研修受講の効果としては自殺者の減少や自殺企図者の支援体制が該当してくるものかと思うが、なかなか把握できる形での効果は表れにくく、研修実施効果の把握は出来ていない。

【委員】：資料33ページに記載のある市内巡回バスについて、「空白地もなく運行を継続できている」とあるが、自分の周囲からは、時間帯や巡回コースがもう少し良くなって欲しいという声も聞くことがあるが、市としてはどう考えているか。

【事務局】：市内巡回バスの運営については様々な意見があることは承知している。市としては、市の規模に応じた内容で事業を行っていると判断している。また、運用の検討を行うための体制を整備しており、必要に応じた協議が随時行われている。

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：資料48ページにある車いす専用車貸出事業について、ホームページによると専用車両を3台整備しているとのことだが、どの程度利用されているか。

【事務局】：昨今の状況としては、週末を中心に1、2台ごとの利用がある。

【委員】：各地区の推進会議や地域活動を行っているコアメンバーについては、新たな人員がなかなか増えていっていないように感じている。資料4

0 ページには今後の方針として「担い手の確保や育成のため、活動のPRを引き続き検討する」とあるが、具体的にはどのような担い手の募集活動等を行っていたのか、またその活動の結果はどのようであったか。

【事務局】：地域活動を行っているコアメンバー等のPRについては、各活動者からの口コミや、地域活動の周知を行う中で、新たな人員を募ってはいるが、なかなか結果には結びついていないというのが現状である。

【委員】：地域福祉の活動については、形として結び付けにくいことも多いが、これまで地域の中でそれぞれの人が「点」となっていた活動が、段々と見えるようになってきたと感じている。しかし、今回会議資料でも地区の取り組みが紹介されているが、ここには記載されていない地域活動も大いにあると思う。そのような活動団体等もお互いに見えるようになり、つながりが持てるようになっていって欲しいと思う。また行政施策においても地域へ働きかける活動はあると思うが、これももっと住民に見える形になると良いと思う。市政の方針を住民の見える形としていくことも重要な取り組みだと思うので、更に地域の福祉を分厚くするため是非検討して欲しい。

イ 各地区の地域福祉活動の取組みについて

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：数年前から碧南市では「協働」をキーワードとして市政の各事業が行われているが、その頃からどういった人を中心に据えて活動を継続して推進していくかが課題となっていたと思う。今回報告いただいた取り組みはとても良いものだと思うが、これをどのように継続していくのかについては、どのように考えているか。

【事務局】：各地区で地域活動を行ってきているが、長く活動の担い手となっていただけの方や、キーパーソンとなっていただけのような方はなかなかいない。地域活動のあり方として、メンバー全員が等しい立場で組織されて活動していくことも悪くない形だと思うが、検討課題としていきたいと考えている。

- 【委員】：ファーストミッションボックスを活用した防災訓練は、各区長や町内会長を中心に、今回報告のあった地区以外の地区においても実施されている。しかし、まだまだ市民全体へは伝わっていないと感じている。市としては大枠を作成出来ているとしているが、地域での体制や備品、マニュアル等にはまだまだ課題は多いと感じている。行政としての対応も提案しているが、地区としても自分達の身は自分で守るという考えのもと、自分達でも整備を進めていこうという動きもある。こういう地域の状況を多くの方に知っていただき、訓練等にも多くの方が参加してもらえるようになると良いと思う。
- 【委員】：地域福祉推進会議のコアメンバーとして、地域での挨拶運動を行うにあたりタスキを作ったが、発案から作成に至るまで結構時間がかかってしまった。最終的には町内会等の協力も得ることができ、良い形となったが、行政として費用負担していくことの難しさを感じた。
- 【事務局】：市として、活動を実施していただいている方々には大変感謝している。今年度、活動の経費負担について円滑な対応が行えなかったことを踏まえ、改善したいと考えている。
- 【委員】：今回は社会福祉協議会から町内会を通じて経費負担を行うこととなったため、円滑な連携に支障が生じたこともあったかもしれない。同じ地域に居るのだから、地域の中での住民や団体間のコミュニケーションがもう少しできていくと良いと思う。
- 【委員】：昨今では、外国籍の住民も増えてきていると感じているものの、外国籍の方への福祉の取り組みがまだまだ少ないと感じるが、この計画推進においては、どのように考えているか。
- 【事務局】：本計画としては、様々な社会生活への障害がある方でも、分け隔てなく地域で生活していくことを目的としている。外国籍の住民の方も今やとても身近な存在で、特別視扱いされる存在ではないと考えている。そのため計画上では、あえて目立たせるような記載はせず、国籍を問わず全住民を計画の対象と考えている。
- 【委員】：地域福祉推進会議の取り組みを考えると、どうしても新しい取り組みを生み出す必要があるように感じてしまうが、既存の地域の資源

が横のつながりを持つことが出来れば、十分大きな活動になっていけると思う。例えば、地域での見守り活動においては、更生保護女性会や赤十字奉仕団の活動の中でも各家庭を訪問する機会は多く、見守りや声掛け等を実質的にやれていると思う。このような団体ともつながりが作れるとより良いと思う。

【事務局】：地域の既存の団体の活動に素晴らしいものが多いことについては事務局としても認識しており、今後も意識していきたいと考えている。実際に、地域福祉推進会議のコアメンバーの活動等にも、地域で活動している多くの方々に、参加、協力していただいております。地域福祉の活動と、団体の活動とが相乗効果を発揮しながら発展していけると良いと考えている。

【委員】：地域には色々な活動を行っている団体が多くあると思うが、普段から関わりのない住民には、あまり知られていない団体も意外と多いのではないかと思う。広報へきなんや回覧板には周知の記事等が掲載される機会もあるかもしれないが、特に若い人では、見ないことも多いと思う。地域で活動している色々な団体の周知をもっと推進していく必要があると思う。

【事務局】：地域で活動している団体の周知については、市においても課題として捉えており、多くの方に届くように、引き続き良い方策を模索していきたいと考えている。

(3) その他

特になし。

(4) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括

本日は各委員から活発な意見が出て、今後の地域福祉推進にも活かしていくことの出来る非常に良い会議だったと思う。自分からも碧南市の現状について評価できる点を4点、課題を3点お伝えしたい。

まず評価できる点としては、1点目に、碧南市ではこの計画の策定にあたり、数値目標をあえて掲げなかったこと。これは少しずつでも地道に推進していこうという体制につながる碧南市と社会福祉協議会の覚悟ある決定であると思う。具体的な完成形を定めていないためか、これまで各地域で「点」として存在していた地域の中の取り

組みも、だんだんつながりを見せ、広い「面」にしていくような取り組みが、地域福祉推進会議等を通して、推進出来てきていると感じている。

次に2点目として、このコロナ禍においても地域福祉推進会議の活動を止めなかったこと。また、碧南市では地域への働きかけを社会福祉協議会に任せきりになることなく市役所の職員も積極的に参加しており、地域の方々の声をしっかりと受け止めながら、地域の活動を縮小させていくことなく、継続することが出来ていることも良い点だと思う。会議の中で、地域活動への「参画者」がなかなか増えてこないという話題があったが、これは確かに難しい。しかし、まず目指すべきは地域活動への「参加者」を増やしていくことである。例えば、今、挨拶運動やボランティア学習の参加対象となっている子供達の中から、その活動している大人達の姿を見て、数年後に自らが活動の参画者になろうと思ってくれる人が現れて来るということがある。そのためにも活動を止めず将来に向けて継続していくことが非常に大切となる。また、活動の「参加者」を集計し、この未来につながる事業成果として、評価につなげていくのも良いと思う。

3点目として、社会福祉協議会の担当職員が「地域福祉」という意義を、自分の言葉で地域住民に語れるようになってきたこと。厚生労働省の資料や様々な専門書籍にはいろいろな解説はあるが、それをそのまま住民に話していてもなかなか伝わらない。前計画の推進当初は私が解説していた時もあったが、最近では各担当者自身が「地域福祉」を深く理解し、自分の言葉で語っていることで、地域の活動者の方々にも伝わってきており、充実した活動につながってきているのだと思う。

4点目として、碧南市の地域福祉活動には、こどもに対する福祉がちゃんとつながっていること。碧南市では地域福祉推進会議に對馬委員のような保育園や小中学校の関係者も参加しており、また碧南市の社会福祉協議会は保育園の運営も担っている。地域での活動においては、地域の参加者を増やすため、また将来への福祉の投資のため、こどもを巻き込んだ活動はとても有効である。碧南市では、そのような強みを活かしていける取り組みは出来ていると思うし、一方で、このような出来ている事をもう少し上手に発信していても良いと思う。

また、逆に課題点としては、まず資料の記載内容を工夫すること。例えば、生活福祉資金の貸付の相談状況等をもとに、生活困窮者の実状等の現状の社会課題が分かるような資料を掲載して、事業評価を行うことで、実際に地域が直面している社会課題

が分かりやすくなり、より今後につながる評価が出来るようになると思う。

2点目として、住民アンケートを工夫すること。住民実態を把握するためのアンケートについて、毎年度の市政アンケートの状況で評価を行っているが、新たなものを考えても良いと思う。地域活動も盛んになってきたことから、この活動の影響状況が分かるように、例えば「地域の挨拶運動に参加していますか」といった、具体的な設問を設けることが出来れば、地域活動の結果として評価に活かすことができ、また、参画者のやりがいにもつながると思う。

3点目として、福祉教育を工夫すること。福祉実践教室の実施以外にも福祉教育の実施を検討していても良いと思う。例えば、ファーストミッションボックスを用いた防災訓練や、ゲートキーパー研修等は、こどもであっても参加は出来る。いざとなったら皆で助け合うとしても、知識が無くては対応できないこともある。そのための知識を、子供達が学習できるようにすることが大事となってくる。今は主に社会福祉協議会がその関係の行政部局と連携し、福祉教育を行っているが、行政の他の部局とも連携を図り福祉教育を変えていくことが出来ると良いと思う。また、地域福祉推進会議の実施自体も、地域の皆さんに福祉のことを知ってもらい、行動に移してもらうために行っており、地域への福祉教育の現場の一つでもあると思う。改めて福祉教育について考えてみると、もっと今の碧南でやれていることを活かしていくことが出来るのではないかと思う。